



MANUAL v.1b

MORE THAN LOGIC. UNITING ART + ENGINEERING.

日本語版マニュアル

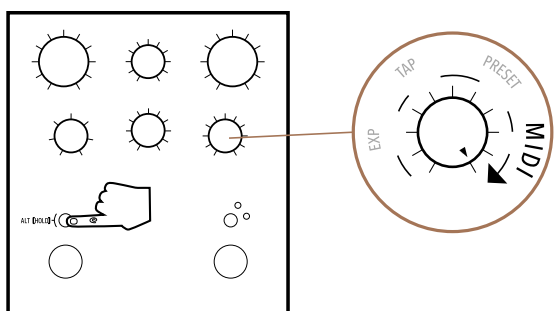
目次

第1章 セットアップ	2
第1a節 EXPモード	2
第1b節 MIDIチャンネル	2
第1c節 MIDI Thru	2
第1d節 ケーブル接続	2
第2章 使用方法	3
第2a節 プリセット選択	3
第2b節 ノブとスイッチのリモートコントロール	3
第3章 プリセットの送受信	3
第3a節 現在のプリセットを送信する	3
第3b節 プリセットを受信する	3
第4章 上級者向け制御 - Sysex	4
第5章 他社製ペダルを使う	4
第6章 技術仕様	4

第1章 セットアップ

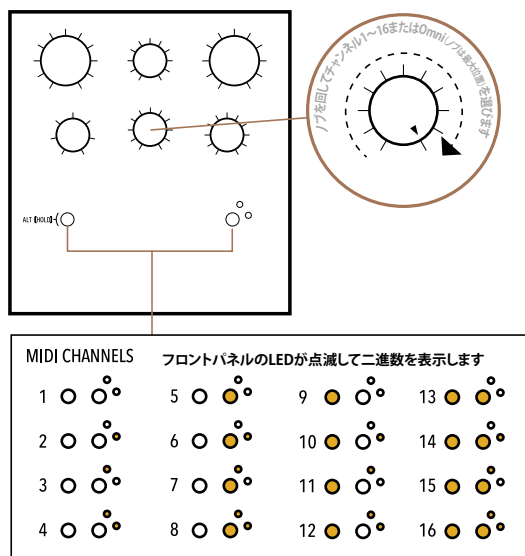
第1a節 EXPモード

まず、Meris ペダルの一般的な設定モードを使ってペダルの EXP ジャックのモードを MIDI に設定します。詳しくは各ペダルの取扱説明書をご覧ください。ただし、簡単に説明すると：ALT ボタンを押しながらペダルに電源投入して3秒間押し続けているとフロントパネルの全 LED が3回点滅します。次いで下段右端ノブを使って MIDI モードを選びます：右側 LED ボタンの上にある2個の小さな LED のうち下側のものだけが点灯した状態にします（ノブを時計回り一杯に回してください）。



第1b節 MIDIチャンネル

Meris ペダルを MIDI モードに設定したら、各ペダル用にしたい MIDI チャンネルを選びます。チャンネル 1～16 と Omni（どのチャンネル上のメッセージにも反応する）が選択できます。各ペダルを個別制御するには各ペダルを別のチャンネルに設定することをお勧めします。一般的な設定モードにあるときに Meris ペダルの下段中央のノブを使って MIDI チャンネルを選びます。

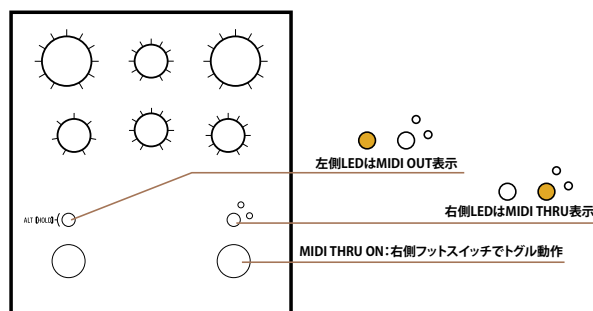


第1c節 MIDI Thru

各 Meris ペダルには2つの MIDI 出力モードがあります。ユーザーのセットアップと用途に応じて、適する方をご使用ください。

MIDI Thru : ノブ回しとスイッチ押しは MIDI メッセージを生成しません。ペダルが受ける MIDI 入力メッセージはそのまま通過したものが出力に現れます（これが“THRU”となります）。これが最も一般的なモードです。MIDI を使ってペダルだけを制御したい、そしてチェーンのさらに下流の他の機材を制御するのにペダルを使いたくない場合にこのモードをお使いください。

MIDI Out : ペダル上での各ノブ回しとスイッチ押しについて、MIDI メッセージが出力に送られます。ペダルが受ける MIDI 入力メッセージは通過したものが出力にも現れます。MIDI ノブの動きを DAW に記録するような場合で、外部機材に同期したりまたはそれを制御したいときにこのモードをお使いください。



注記 : 設定モードから抜け出て、変更を保存するには電源を一度切ってから入れ直してください。

第1d節 ケーブル接続

ペダルの設定が完了したらペダルから電源プラグを抜いてください。設定が保存されます。ここでペダルボード上の接続を行います。DIN ケーブルを用いて MIDI In と MIDI Out を接続してください。TRS ケーブルを用いて Meris ペダルを本機に接続します。そして最後に、DC 9V 電源で本機（およびペダル）に給電します。



第2章 使用方法

第2a節 プリセット選択

Meris ペダルは各プリセットを選択・稼動する MIDI プログラムチェンジメッセージ (PC) に反応します。本機を用いて Meris ペダルと動作させるように MIDI コントローラーを設定する際に覚えておいて頂きたいことがいくつかあります：

PC 0 は Meris ペダルをバイパスさせます。

PC 1 ~ 16 はプリセット 1 ~ 16 を選んで稼動状態にします。

MIDI コントローラーからプリセットを選んで稼動させるには、PC を 1 つ送るだけです。

プリセットを 1 つ選びたいけれどもペダルをバイパス状態のままに保ちたい場合は、PC を 1 つ、次いで CC を 1 つ送信してバイパスしてください (詳しくは下記 MIDI CC 参照)。大抵のプログラマブル MIDI コントローラーではスイッチ毎に複数メッセージを送ることができます。

第2b節 ノブとスイッチのリモートコントロール

各ノブやスイッチ、別機能、モード、そしてエクスプレッションペダルは MIDI CC (コンティニュアスコントローラーメッセージ) を介して利用できます。ペダルは MIDI CC をつねにモニターし、MIDI Thru 設定によっては、ユーザーインターフェイス上での各選択について MIDI CC を生成します。

ご使用の Meris ペダルの MIDI CC 一覧表はそのペダルの取扱説明書を参照してください。

多分遭遇するであろう MIDI CC の最も一般的な用途はエクスプレッションペダルを制御するということです。大抵の MIDI コントローラーはエクスプレッションペダルを接続できますので、ユーザーはエクスプレッションペダルのデータを CC を使って送信できます。これによって、エクスプレッションペダルを用いて Meris ペダルを同時に制御しながら、PC を介してプリセットを変更するという便利な選択肢が手に入ります。

第3章 プリセットの送受信

本機を用いて MIDI 入力と MIDI 出力の両方を Meris ペダルに接続すると、Meris ペダルとパーソナルコンピューターやタブレットのような外部機材との間でプリセットの送信と受信の両方という選択肢が利用可能になります。MIDI プリセットは SysEx メッセージを介して送信されます。

複数のペダルを用いて最良の結果を得るには、異なる MIDI チャンネルを選んでください (第 1b 節参照)。ペダルを MIDI OUT に設定してあることを確認してください (第 1c 節参照)。

第3a節 現在のプリセットを送信する

現在のプリセットを接続されているデバイスに送るには、ALT ボタンを押しながら、もう 1 つの LED 内蔵の押しボタンを押してください。それだけです。プリセットが送信されます。アプリケーションを開いてあって MIDI SysEx を記録するの

を待っている状態にしてあることを確認してください。Mac については Meris 社ではプリセットを記録するアプリケーションとして SysEx Librarian を使用しています。

第3b節 プリセットを受信する

接続したデバイスでプリセットを受け取るには、そのプリセットをお気に入りのライブラリアン (繰り返しとなりますが Meris では SysEx Librarian です) を使ってペダルに送るだけです。Meris ペダルはプリセットを常時モニターしています。送信した新しいプリセットが気に入った場合は ALT ボタンを長押しして保存してください。ペダルに送ったばかりのプリセットが気に入らない場合は保存しないで

ください。新しいプリセットを保存しないと決めた場合は、次の PC または電源の入れ直しの際にそのロケーション内の元のプリセットが通常どおりに読み込まれます。

第4章 上級者向け制御 - Sysex

Sysex はシステムエクスクルーシブメッセージの略語で、便利かつより深い制御を可能にするためにプログラムチェンジ(PC)およびコンティニューアスクントローラー (CC) メッセージよりもはるかに長い1つのメッセージ内にバイトを連ねることで、各メーカーによって作られています。これらはエディターとライブラリアンを用いて作業するのに最も良く使われます (そして Meris ではプリセットの送受信のためだけにこれを行っています)。

プリセットの送受信以外に、本機を使って全体的な設定を変更することができます。ただし注意して利用してください。グローバルな設定をオンザフライで変更させる Sysex を分析すると次のようになります：

メッセージ例：F0 00 20 10 00 01 00 2A 00 7F F7

F0	Header
00 20 10	Meris ID (メーカーが異なれば ID も異なります)
00	Prod ID (ユーザー定義可能, MIDI チャンネルと合致)
01	Group ID (01 = ペダルシリーズ)
00	Model # (00 = Ottobit Jr, 01 = Mercury7, 02 = Polymoon)
2A	Command (2A = Sysex を介するグローバルな編集)
00	Global Num (下表参照, 0 は TRS 入力)
7F	Value (00 = OFF, 7F = ON)
F7	Footer

Global Num の値

- 00 は GLOBAL_TRS_IN への変更を示します
- 01 は GLOBAL_INPUT_LEVEL への変更を示します
- 02 は GLOBAL_RELAY_BYPASS への変更を示します
- 03 は GLOBAL_KILL_DRY への変更を示します
- 04 は GLOBAL_TRAILS への変更を示します
- 05 は GLOBAL_TEMPO_SELECT への変更を示します

第5章 他社製ペダルを使う

本機は MIDI に TRS を採用している他の大半のペダルメーカーのものに使用できます。Meris と同様に TRS ケーブルのリングで MIDI を送信し、TRS ケーブルのチップで MIDI を受信する Empress effects 社製品には、箱から取り出してすぐに使用できるはずですが、

TRS ケーブルのリングで MIDI を受信していますので (Chase Bliss Audio 社のペダルは現在は伝送しません)、Chase Bliss Audio 社のペダルに使う場合はカスタムケーブルを作る必要があるでしょう。

Meris ペダルは MIDI を送受信することも忘れないでください。円滑に動作させるために、本機は MIDI をペダル出力から次のペダル入力へと通過させます。一方、他のペダルは MIDI データを In から Out へと再配信するかも、またしないかも知れません。データがセットアップ内を適切に流れるようにご使用になるペダルの取扱説明書をチェックしてください。

第6章 技術仕様

電源	DC 9V, 10 mA, 2.1 mm ジャック (センターピン=ネガティブ)
寸法	W94 × D66 × H38 mm
重量	181 g

Mix Wave®

Meris 社日本代理店 ミックスウェーブ株式会社

〒154-0014 東京都世田谷区新町 2-3-2-3F

電話番号：03-6804-1681 Email：sales@mixwave.co.jp Fax：03-5450-8201

Web：http://www.mixwave.co.jp

本書は米国 Meris 社の許諾を得て同社の『MIDI I/O Manual v.1b (2018年3月27日発行)』をミックスウェーブ株式会社が翻訳・編集したものです。無断複写・転載を禁じます。

Japanese Edition, © 2019 Mix Wave, Inc. All rights reserved.